



SAPPORO



SAPPORO GROUP CSR REPORT 2017
サッポログループ CSRレポート



編集方針

サッポログループは、お客様・従業員を含む幅広いステークホルダーの方々に、わかりやすくサッポログループのCSR活動を報告するためにCSRレポートを発行しています。

また、ウェブサイトでは、より詳細なCSR情報がご覧いただけます。

<http://www.sapporoholdings.jp/csr/index.html>

報告範囲

対象期間

2016年4月1日～2017年3月31日

発行時期

2017年8月

※一部2016年4月以前および2017年4月以降の内容を含みます。


対象組織

サッポロホールディングスが主体となり、国内を中心に、グループ全体および主要事業会社とその関係会社、機能分担会社の取り組みを紹介しています。また海外の事業会社についても、一部のデータ・活動を報告しています。

参考しているガイドライン

主に環境省の「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考とし、GRIの「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」(G4) およびISO26000(社会的責任に関する手引き)なども参照しています。

Contents

- 01 目次
- 02 サッポログループ CSRの原点
- 03 サッポログループのあゆみ
- 05 トップメッセージ
 次の10年を見据えて「異次元スピードの変革」をテーマに、成長ステージへ
- 07 事業紹介
- 08 財務ハイライト
- 09 経営ビジョン
- 11 サッポログループのCSR
- 13 重点課題
- 15 特集
 安全・安心で高品質な原料の安定調達を求めて
- 19 ■『酒・食・飲』による潤いの提供
- 23 ■ 社会との共栄
- 27 ■ 環境保全
- 31 ■ 個性かがやく人財の輩出
- 35 コーポレートガバナンス
- 37 日本から世界に広がるサッポログループ

Origin of Sapporo Group's CSR

サッポログループ CSRの原点

サッポログループのCSRには、2つの原点があります。

一つは、酒類・食品メーカーとしての「ものづくり」の原点である「開拓使麦酒醸造所」。
もう一つは、外食事業における「お客様を笑顔に」の原点である日本初の「ビヤホール」。
いずれも明治時代に誕生したそのときから、それぞれの事業を通じて「社会と共生し、お客様の喜びを糧とする」活動を行ってきました。その思いは、現在の「サッポログループのCSR基本方針」に引き継がれ、グループ各社のCSR活動の展開へ脈々と続いています。



「ものづくり」の原点

— 活動の原点は創業時の“思い” —

サッポロビールは、1876(明治9)年、開拓使麦酒醸造所として創業しました。舶来ビールが主流だった明治初頭において、日本人によるビールの国産化を図る官営事業としてのスタートでした。事業の開始当初から、ビールの本場ドイツで修業した日本人醸造技師のもと、低温で長い時間をかけて熟成させるドイツ式淡色ビールを目指しました。この淡色ビールの生産に、寒冷な札幌はまさに最適でした。また「よい原料がよい品質のビールをつくる」と考え、北海道産の大麦とホップの試験栽培に挑戦。1880(明治13)年から指定した農家に栽培を委託しました。これにより地域の勤農を促すとともに、現在サッポロビールが進める「協働契約栽培」の起源ともなりました。

地域とともに原料にこだわり、おいしいビールで人々に喜んでいただきたい。こうした創業時の“思い”こそが、サッポログループの“品質へのこだわり”をもたらし、その後の品質をはじめとするさまざまな取り組みの原点となっています。

「お客様を笑顔に」の原点

— いつもお客様に喜ばれる存在であるために —

1899(明治32)年8月、現在の東京都中央区銀座八丁目に日本で最初のビヤホールが誕生しました。これがサッポロライオンのルーツ「恵比壽ビヤホール」です。時あたかも諸外国との不平等条約が改正され、その記念祝賀会が翌日に行われるという社会に高揚感がたどようなかでの船出でした。

日清戦争終結の頃から、ビールはハイカラな飲み物として都市部で普及していましたが、「恵比壽ビヤホール」の登場は社会の有り様をも変えるものでした。当時の新聞は、「貴賤高下の隔ては更に無い。フロックコートと兵服と相接して、共に泡だつビールを口にし、やがて飲み去って共に微笑する處」と評しました。「恵比壽ビヤホール」は、四民平等のもとに飲食を楽しむ新しい文化の象徴だったのです。ビヤホールが誕生してから現在まで、「おいしいビール」を提供するその場には、毎日通ってくださるファンの方々をはじめたくさんのお客様が集います。私たちはビヤホールを生み出した企業として、いつの時代も変わらず、人々に喜びや感動をお届けする新しい飲食シーンの提供を続けていきます。



Our History

サッポログループのあゆみ

サッポログループはコア事業を『酒』『食』『飲』の3分野と位置づけ、不動産事業とともにグループ保有のブランドを育成・強化し、日本国内のみならず、世界に潤いと豊かさをご提供できる企業となることを目指します。

1876

開拓使麦酒醸造所 設立

開拓使麦酒醸造所は北海道開拓使の国営醸造所として札幌市に設立されました。



1877

「札幌ビール」発売



1956

北海道で「サッポロビール」復活



2003



2003

純粋持株会社
サッポロホールディングス株式会社を設立



2006
焼酎事業参入



2012
「グランポレール勝沼ワイナリー」オープン



2017
「サッポロ生ビール黒ラベル」発売40周年



サッポログループの事業

国内酒類事業



1887

日本麦酒醸造会社 設立

日本麦酒醸造会社は東京・銀座に設立されました。



1890

「恵比寿ビール」発売

1964

社名をサッポロビール株式会社に変更

1899

日本初のビヤホール「恵比寿ビヤホール」誕生

当時としては極めてモダンなビヤホールは、開店以来繁盛してきました。現在、銀座での開店から100年以上が経過しました。ビヤホールの継続的な発展の歴史はお客様の変わらぬご愛顧とともにあります。



1934

現存する最古のビヤホール開店
(現：「ビヤホールライオン銀座七丁目店」)



1979

社名を株式会社サッポロライオンに変更



2009

サッポロビールと共同開発した「エビスバー」1号店を銀座コリドー街に開店



2013

「GINZA LION BEER HALL」シンガポール1号店開店



2016

北海道の飲食業 株式会社マルシンカワムラおよび小売業 株式会社銀鱗水産を連結子会社化

外食事業



1909

「シトロン」の製造・販売を開始

「シトロン」は現在でもお客様に親しまれ続けている商品です。「シトロン」の製造・販売を開始することによって、清涼飲料水事業に進出しました。

※「シトロン」は類似品が多数発売されたため1915年に「リボンシトロン」と改名



1957

国際飲料株式会社を設立

2011

株式会社ポッカコーポレーションを連結子会社化



2013

株式会社ポッカコーポレーションとサッポロ飲料株式会社が統合し、ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社として事業開始



2014

マレーシアにポッカ・マレーシアの新工場が竣工・稼働



2015

トーラク株式会社から豆乳飲料・豆乳ヨーグルトの営業権を譲受し、豆乳事業へ参入

食品・飲料事業



1964

米国向けにビールの輸出を開始

この年、サッポロビールは海外進出を開始しました。その後、北米と東南アジアに販路を拡大し、さらなる発展の基盤を築きました。



1984

米国に SAPPORO U.S.A.,INC. を設立

+新規事業

2016

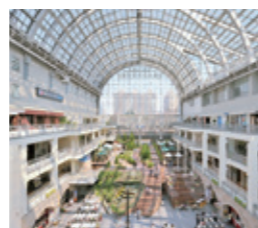
サッポロホールディングスは、味噌・即席みそ汁・フリーズドライの製造・販売を手がける宮坂醸造株式会社(現：神州一味噌株式会社)を連結子会社化しました。



1988

星和不動産管理株式会社(現：サッポロ不動産開発株式会社)設立

サッポロビール工場跡地の再開発を起源としています。サッポログループの成長に大きく貢献する安定した基盤を提供します。



1993

サッポロファクトリー開業



1994

恵比寿ガーデンプレイス開業



2006

カナダの SLEEMAN BREWERIES LTD. を連結子会社化



2010

ベトナムの SAPPORO VIETNAM LTD. を連結子会社化

2012

アメリカの飲料事業に進出



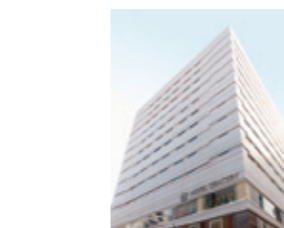
2012

アメリカの SILVER SPRINGS CITRUS, INC. を連結子会社化

2015

アメリカの COUNTRY PURE FOODS, INC. を連結子会社化

国際事業



2006

「STRATA GINZA」竣工



2014

「恵比寿ファーストスクエア」竣工



2016

「GINZA PLACE」開業

不動産事業



次の10年を見据えて 「異次元スピードの変革」をテーマに、 成長ステージへ

140年の伝統を受け継ぎ、 新たなスタート

1876年に北海道で開業した開拓使麦酒醸造所を起源とする私たちサッポロホールディングスは、昨年、創業140周年を迎えました。その間、「サッポロ生ビール黒ラベル」や「エビスビール」など数多くのブランドを生み出し、海外事業を積極的に展開、さらにポッカコーポレーションの経営統合により食品事業をスタートさせ、「食」の総合メーカーとして、そのポジションを強固なものとしてきました。これからの次なる10年は、この140年という長い歴史のなかで培われた創業時からのDNAをもとに、新たな成長ステージへと力を発揮してまいります。

新長期経営ビジョン

新たな10年の歩みについて、長期経営ビジョン「SPEED150」を策定し、経営の方向性を示しました。グループの成長の源泉は、創業以来140年の歴史のなかで培われた「ブランド資産」にあると改めて認識したうえで、コア事業を「酒」「食」「飲」の3分野と位置づけ、不動産事業とともにグループ保有のブランドを育成・強化していきます。「酒」「食」「飲」の3分野を展開するユニークな強みを活かし、特長ある商品・サービスをグローバルに展開し、お客様との接点拡大を図ることで、力強い成長を目指します。また、2026年までの10年間のうちの最初の4年間(2017～2020年)を「第一次中期経営計画2020」として、売上高成長の継続と最高益を更新する計画です。

ステークホルダーの皆様へ

私たちは、150周年に向けて成長スピードを加速させていくために、新長期経営ビジョンに「コーポレートコミュニケーションの強化」を掲げ、本年、CSR活動の重点課題を見直し、「酒・食・飲」による潤いの提供」「社会との共栄」「環境保全」「個性かがやく人財の輩出」の4つの約束を新たに決めました。

4つの約束を定めるにあたっては、ステークホルダーの皆様からご意見をいただきました。また、2015年9月に国連持続可能な開発サミットで掲げられた「持続可能な開発目標(SDGs)」や国際CSRガイドラインなどを参照しております。

コーポレートガバナンスの充実による経営の透明性・公正性確保、そして4つの約束に則った誠実な企業活動を通じ、積極的かつ適切な情報開示と相互コミュニケーションを図ることで、すべてのステークホルダーの皆様との信頼関係を深めてまいります。

また、私どもの使命である「酒」「食」「飲」のビジネスを通じて、お客様に喜んでいただき、明日への活力を育むようなブランドを築き上げるためには、社員が喜びと充足感をもって仕事をすることも不可欠です。一人ひとりの個性が活きる組織・制度を築き、グループの強い結束力を生み出し、成果の最大化を図ってまいります。

ステークホルダーの皆様には、引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。

サッポロホールディングス株式会社 代表取締役社長

尾崎真城



Our Business

事業紹介

数ある食品企業のなかでも、『酒』『食』『飲』の3分野を展開するユニークな強みを活かし、「国内酒類」「国際」「食品・飲料」「外食」「不動産」の5つの事業を通じてグループのブランドを育成することで、独自の価値創出に努めています。食卓を彩る商品・サービスをグローバルに展開し、これからも世界のお客様に潤いと豊かさを提供していきます。



国内酒類事業

サッポロビール株式会社

1876年の創業以来一貫して原料にこだわり、つねに新たな可能性を追い求めて高品質な商品をつくり上げ、お客様に新しい楽しさや豊かさをお届けすることを目指しています。「乾杯をもっとおいしく。」というメッセージのもと、ビール事業を中心に、ワイン・スピリッツなどの酒類事業を展開。サッポロならではの独自の価値をもつ商品・サービスを提案します。



国際事業

サッポロインターナショナル株式会社

北米・東南アジアを中心に、それぞれのエリア特性を踏まえた成長戦略を推進し、さらなる飛躍を目指しています。北米ではアジア系ビールで全米No.1のSAPPORO PREMIUMブランドと、カナダでのSLEEMANブランドの強みを活かし、飲料事業ではB to B飲料メーカーとして事業拡大を図っています。また、東南アジアでは成長著しいベトナムでSAPPORO PREMIUM BEERをフラッグシップとしたSAPPOROブランドの価値向上に邁進しています。



食品・飲料事業

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

国内では、レモンやスープ、飲料、豆乳などの各種商品の製造・販売を主に、カフェチェーンの運営も行っています。海外では、シンガポールを拠点として世界各国へPOKKAブランドの飲料を展開し、東南アジアでの現地生産モデルを推進するなど、常にチャレンジし続けています。斬新なアイデアやひらめき、あふれ出る情熱で新しい商品を次々と生み出し、お客様に「おいしい」をお届けします。



SAPPORO



外食事業

株式会社 サッポロライオン

日本初のビヤホール「恵比壽ビヤホール」を創業し、一世紀以上の歴史を刻んできました。ビヤホール「銀座ライオン」「エビスパー」、和食業態など、お客様に安全・安心でおいしい料理、居心地の良い空間を通じた「おもてなし」の提供を目指しています。



不動産事業

サッポロ不動産開発株式会社

サッポログループとゆかりの深い恵比寿・札幌・銀座の3拠点を中心に不動産の管理・運営、開発事業などを展開。「恵比寿ガーデンプレイス」「サッポロファクトリー」「GINZA PLACE (銀座プレイス)」など、まちづくりを通して「豊かな時間」と「豊かな空間」を創り・育みます。

Financial Highlights

財務ハイライト

連結財務ハイライト

| | 2014 | 2015 | 2016 |
|-----------------|-------|-------|-------|
| 売上高 | 5,187 | 5,337 | 5,418 |
| 営業利益 | 147 | 139 | 202 |
| 経常利益 | 145 | 132 | 192 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 3 | 61 | 94 |
| 総資産 | 6,254 | 6,203 | 6,263 |
| 純資産 | 1,600 | 1,638 | 1,663 |
| 自己資本比率 (%) | 25.0 | 25.5 | 25.7 |

財務の状況

総資産

のれんの償却による減少などはありませんでしたが、グループとゆかりが深い名古屋市中区栄にある商業ビルの信託受益権取得による有形固定資産増加などがあったため、前連結会計年度末と比較して59億円増加し、6,263億円となりました。

負債

短期借入金の減少があった一方、長期借入金の増加などによって、前連結会計年度末と比較して34億円増加し、4,599億円となりました。

純資産

期末配当の実施や退職給付に係る調整累計額の減少などがありましたが、当期純利益の増加などによって、前連結会計年度末と比較して25億円増加し、1,663億円となりました。

損益の状況

売上高

国内酒類事業ではビール強化や多層化の取り組みが奏功し、売上数量が増加したことに加え、食品・飲料事業で国内食品・飲料の売上数量が増加したことなどにより、前期と比較して80億円の増収となりました。

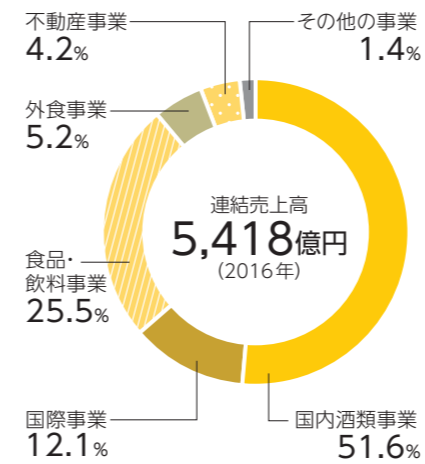
営業利益

売上高の増収に加えコスト削減などの経営効率化の取り組みを進めたことにより、全事業での増益を達成し、前期と比較して63億円の増益となりました。

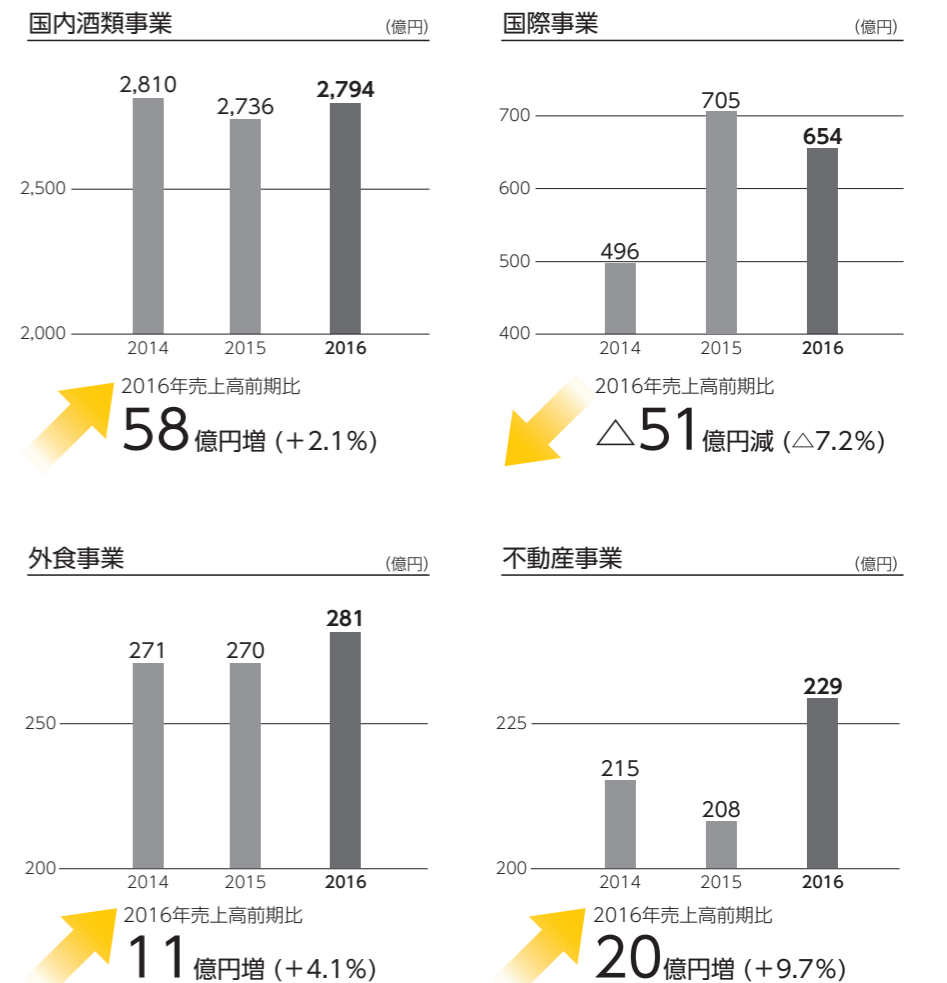
親会社株主に帰属する当期純利益

特別損失に固定資産除却損14億円や、減損損失10億円を計上したこともあり、親会社株主に帰属する当期純利益は前期と比較して33億円増益となりました。

セグメント別売上高構成比



セグメント別売上高



サッポログループ長期経営ビジョン「SPEED150」

創業 150 周年にあたる 2026 年までに、グループが目指すべき姿として「長期経営ビジョン『SPEED150』」を策定しました。
 グループの成長の源泉は、長きにわたり培われた「ブランド資産」にあると改めて認識したうえで、グループのコア事業を「酒」「食」「飲」の
 3 分野と位置づけ、不動産事業とともにグループ保有のブランドを育成・強化していきます。

2026 グループビジョン

サッポログループは 世界に広がる「酒」「食」「飲」で 個性かがやくブランドカンパニーを目指します

3つの成長戦略テーマ

1 国内酒類・飲料事業の 収益力強靱化

国内酒類事業ではビール事業のブランド力強化とワイン事業の育成で、飲料事業では利益体質への転換と海外事業拡大により、収益力を強靱化してグループを牽引する。

2 「食」分野の拡大加速

あらゆる食シーンへの「おいしさ」「楽しさ」「豊かさ」の提供を通じ、既存事業の強化と新たな事業への参入で、広く「食」分野におけるサッポログループのプレゼンスを高める。

3 グローバル展開の推進

グループの成長ドライバーとして、グローバル経営基盤を強化し、既存事業の成長やM&Aなどを含む新規開拓を推進することで、グローバルでのグループプレゼンスを拡大させる。

SPEED150 ロードマップ

第一次中期
2017-2020

成長ステージへの移行に向けた
異次元スピードでの変革

第二次中期
2021-2023

成長ステージでの飛躍を実現する
積極投資と成果創出

第三次中期
2024-2026

次なる成長ステージを見据えた
機会創出への挑戦

第一次中期経営計画 2020

「長期経営ビジョン『SPEED150』」のもと、2017年から2020年までの4年間で取り組む基本戦略を「第一次中期経営計画 2020」に定め、事業成長や成長機会獲得とともに、スピードをもってグループの経営変革に取り組みます。

基本方針と戦略概要

成長ステージへの移行に向けた 異次元スピードでの変革

グループ経営

グループ経営基盤の変革

グループの成長を促進させる「経営資源の戦略的シフト」「セグメント経営の事業構造変革と推進」による「基盤機能強化」を主導・実行する。

事業活動

既存事業の継続的成長

それぞれの事業セグメントが定める競争領域の課題にフォーカスし、ブランド力の強化と継続的成長を実現する。

投資事業の成果創出

成果未創出の投資事業の収益性向上に取り組み、成長拡大ステージへの早期移行に導く。

成長機会の獲得

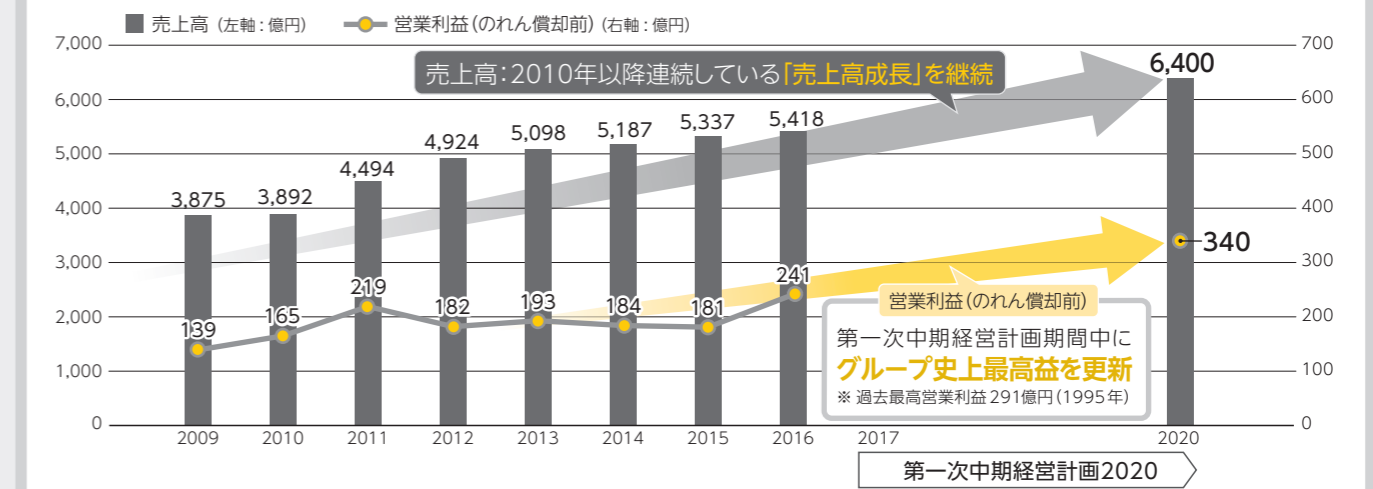
1 「食」分野の拡大加速

「素材」と「加工」両面からの新たな価値創出へのアプローチに加え、生活者ニーズからターゲット領域を定め、付加価値性の高い食事業を育成する。

2 グローバル展開の推進

北米・東南アジアを中心に、それぞれのエリア特性を踏まえた戦略遂行と収益性を高める事業基盤の強化を進めながら、新たな成長機会を探索する。

定量目標



財務指標

2017年～2020年の4年間での実現を目指す。

営業活動によるキャッシュフロー

1,800 億円

「基盤機能強化」および「既存事業の継続的成長」と「投資事業の成果創出」でキャッシュフローを創出する。

投資活動によるキャッシュフロー

1,300 億円

「酒」「食」「飲」分野へ積極的にキャッシュ配分する。

有利子負債

D/Eレシオ 1 倍程度を目安とする。

株主還元

配当性向 30%を目安とする。

CSRの基本的な考え方

1876年の創業時から、サッポログループのDNAは「おいしさ・品質へのこだわり」「フロンティアスピリット」にあります。そして、それらを核にグループ各社がその事業を通じて社会に対する責任を果たすことが「潤いを創造し 豊かさに貢献する」という経営理念の実現につながると思っています。サッポログループのCSRとは、「経営理念、経営方針の具現化を通じて、社会に対する責任を果たし、ステークホルダーの信頼を高め、企業の価値を向上させること」です。

サッポログループ経営理念

『潤いを創造し 豊かさに貢献する』

経営の基本方針 | サッポログループは、ステークホルダーの信頼を高める誠実な企業活動を実践し、持続的な企業価値の向上を目指します

サッポログループのCSR基本方針

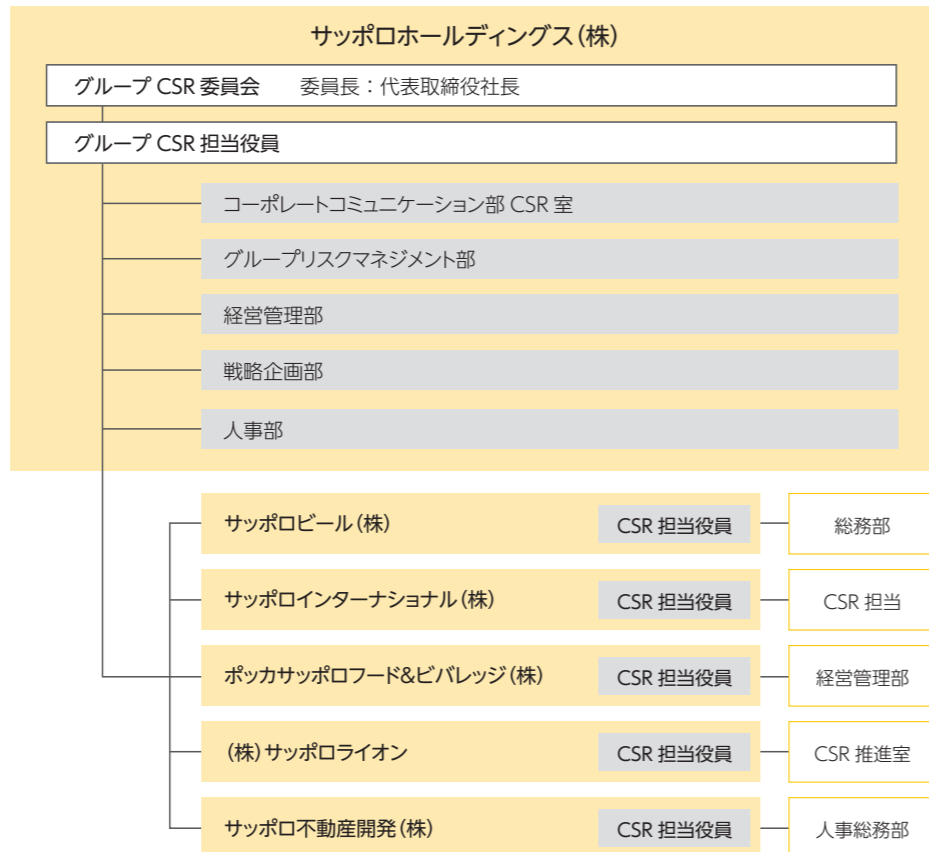
わたしたちは、いつもお客様に喜んでいただける企業活動を通じて、社会に信頼されるグループであり続けます

1876年のサッポログループ創業以来、わたしたちは社会と共生し、お客様の喜びを糧とし、歩んできました。これからもわたしたちサッポログループは、「潤いを創造し 豊かさに貢献する」という経営理念のもと、お客様に喜んでいただける誠実なグループであり続けることによって、企業としての発展を目指すとともに持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

CSR推進体制

サッポロホールディングスは、サッポログループのCSR経営推進のための全体方針を策定し、グループ内の連携・調整を行うための機関として、代表取締役社長を委員長とする「グループCSR委員会」を設置しています。

サッポロホールディングス コーポレートコミュニケーション部CSR室は、グループ各社のCSR活動推進のための諸施策を立案・実施しているほか、事業会社のCSR担当者との会議を月例で開催し、情報共有と進捗の確認を行っています。



ステークホルダーとの関わり

サッポログループは、持続可能な社会の発展に貢献するため、ステークホルダーとの対話を重視し、積極的に双方向コミュニケーションを取っています。

| ステークホルダー | 主なエンゲージメントの機会 | 具体的な活動 |
|-----------------|---|--|
| お客様 | <ul style="list-style-type: none"> お客様相談窓口 工場見学 各種イベント | <ul style="list-style-type: none"> さらなるお客様の満足のために サッポログループの研究開発 安全・安心な空間の創出 |
| 株主・投資家 | <ul style="list-style-type: none"> 株主総会 決算説明会 国内外機関投資家との個別対話 報告書発行 | <ul style="list-style-type: none"> コーポレートガバナンス体制 |
| 取引先・関係会社 | <ul style="list-style-type: none"> 日常的なコミュニケーション グループ調達基本方針、CSR視点での調達 | <ul style="list-style-type: none"> サプライヤー満足度調査の実施 サプライヤー交流会の実施 パートナーとの関係強化 |
| 従業員とその家族 | <ul style="list-style-type: none"> 階層別・部門別研修 メンタルヘルスケア 労働組合 企業倫理ホットライン イントラネット | <ul style="list-style-type: none"> キャリア形成支援 参加型キャンペーンの実施 安定した労使との関係 リスク管理体制 グループ合同入社式 |
| 地域社会 NPO・NGO | <ul style="list-style-type: none"> 次世代育成支援 | <ul style="list-style-type: none"> 適正飲酒啓発活動 職場体験 食育 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 地域貢献活動 | <ul style="list-style-type: none"> 工場での取り組み 地域に密着した取り組み 文化支援活動 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 被災地への復興支援 環境保全活動 | <ul style="list-style-type: none"> 被災地支援 3Rの推進 自然との共生 地球温暖化防止 |

「国連グローバル・コンパクト」参加と、「持続可能な開発目標 (SDGs)」達成への貢献



サッポロホールディングスは、2013年10月31日「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に参加しました。UNGCは、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたる10の原則を掲げ、企業に責任ある行動を促すものです。

また、2015年9月に国連持続可能な開発サミットで掲げられた17の「持続可能な開発目標 (SDGs)」に関して、サッポログループと関連性のある目標に積極的に取り組み、今まで以上に国内外のステークホルダーの信頼に応え、持続可能な社会の実現に貢献できるよう活動していきます。



CSR重点課題と4つの約束 概念図

重点課題(マテリアリティ)分析をもとに当社のCSR重点課題と4つの約束を以下の概念図として集約しました。事業の基盤を成すコーポレートガバナンスとともに、『酒・食・飲』『社会』『環境』『人財』が事業の成長の源泉であるブランド・信頼を形成する様子を表しています。



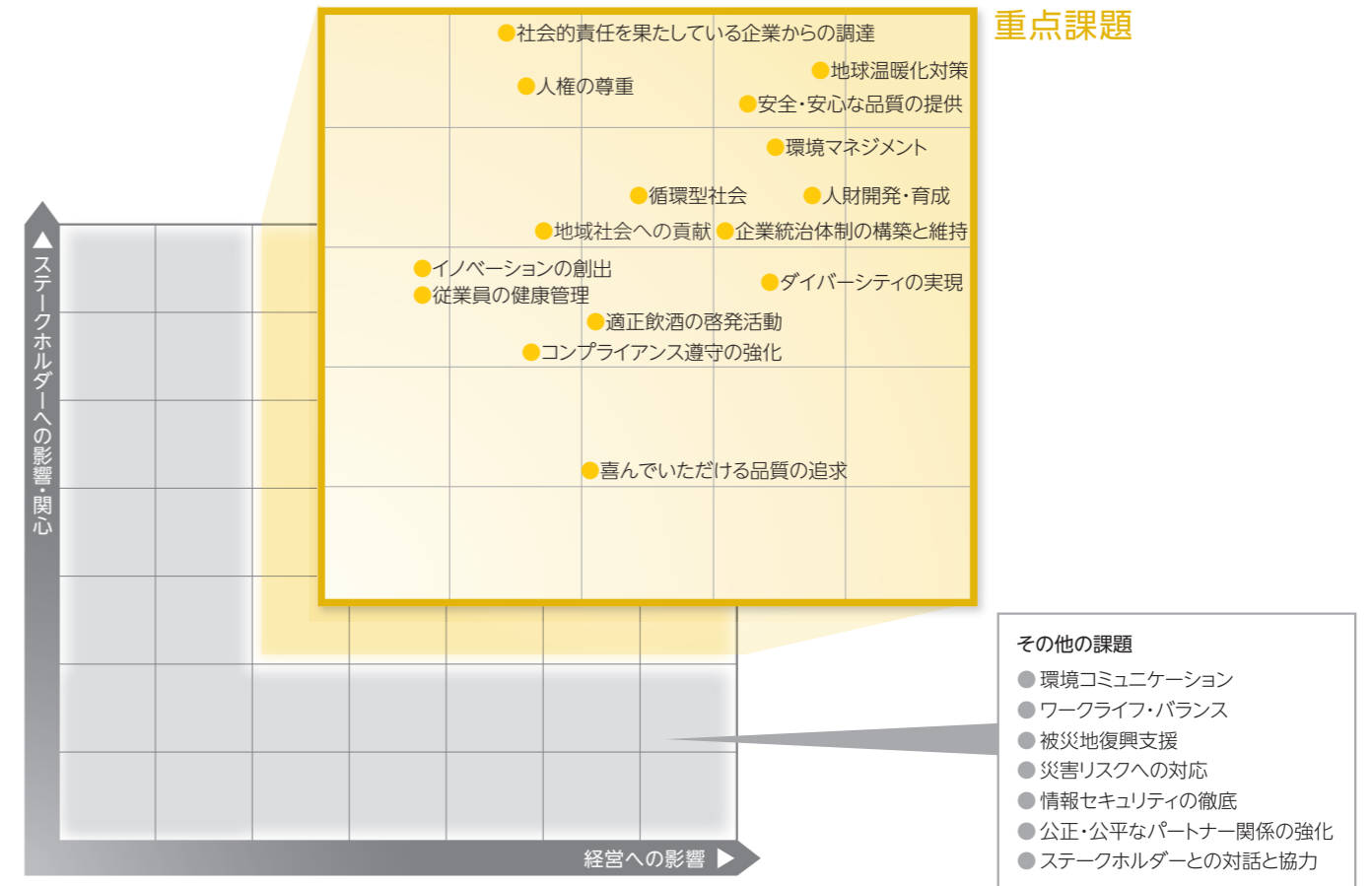
4つの約束

社内外へ発信・周知するため、CSR重点課題を「4つの約束」に整理しました。日々のCSRの取り組みに浸透するよう、いっそう力強く、スピーディーにCSRを推進してまいります。

| 約束① | 約束② | 約束③ | 約束④ |
|--|--|---|--|
| 『酒・食・飲』による潤いの提供 | 社会との共栄 | 環境保全 | 個性かがやく人財の輩出 |
| 『酒・食・飲』を通じて、新しい価値を創造し、お客様に喜びと潤いをお届けします。また、商品・サービスの品質の追求と安全性の優先を徹底するとともに、酒類事業を展開する企業グループの社会的責任として、適正飲酒の啓発活動に取り組みます。 | 地域社会の一員として地域の発展や課題解決に貢献し、地域の皆様とともにより良い未来を創造します。また、持続可能な調達に向け、サプライヤーと協働でCSRに取り組み、健全で豊かな社会の実現に貢献します。 | 自然の恵みを未来に受け継ぐため、各段階において地球温暖化防止、3Rの推進、自然との共生に努めます。また、従業員一人ひとりが地球環境に配慮し、主体的に環境活動を推進します。 | すべての従業員を会社の宝＝「人財」と位置づけ、従業員のあらゆる多様性を尊重し、一人ひとりの能力を最大限発揮できる環境の整備を強化するとともに、従業員の心と体の健康保持・増進、安全に向けた取り組みを推進します。 |

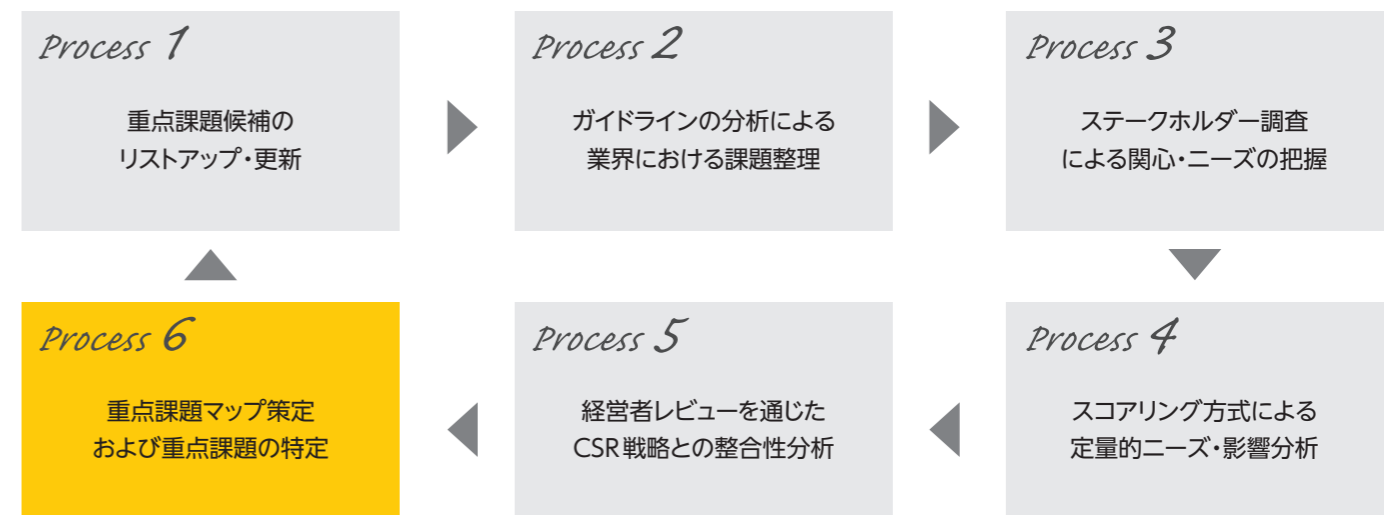
重点課題マップ

経営への影響度およびステークホルダーへの影響・関心度を二軸に、重点課題候補をマッピングして絞り込みを行いました。



重点課題の特定・更新プロセス

重点課題候補をガイドラインやステークホルダー、経営者などのさまざまな視点から分析し、重点課題を特定・更新しました。



Collaborative Contract Farming System

協働契約栽培

安全・安心で高品質な原料の安定調達を求めて

お客様の間で「食の安全」への関心が日々高まるなか、サッポログループではお客様へのより高品質で安全・安心な商品・サービスの提供に尽力しています。本特集では、原料調達面での取り組みである「協働契約栽培」をご紹介します。

近年、よりいっそうお客様の食の安全・安心への関心が高まっています。それにとともに、食に携わる企業に求められる基準は年々厳しくなっています。「どこで」「誰が」「どのように」つくったのかという生産情報の開示や、安全・安心かつ高品質な原料の安定した調達などが求められています。

サッポログループは創業以来、食品を扱う企業グループとして「商品・サービスの品質の追求と安全性の優先」を掲げ、お客様に信頼される企業を目指して取り組んでいます。その中の取り組みに「協働契約栽培」があります。

これは、以下を3本柱とした、世界でも類をみないサッポロビール独自の原料調達システムです。

- 1 大麦とホップの産地と生産者が明確であること
- 2 生産方法が明確であること
- 3 サッポロビールと生産者の交流がされていること

世界約10カ国の「協働契約栽培」の産地を、フィールドマンと呼ばれる原料の専門家が直接訪問し、相互のコミュニケーションを積み重ねることで、安全・安心で高品質な原料の安定調達が可能にしています。

3本柱の詳細は次のページよりご説明します。



Feature 1 大麦とホップの産地と生産者が明確であること

どこで誰が生産したかがわかることはトレーサビリティの基本です。サッポロビールでは、サプライヤーと生産者の協力のもと、購入する大麦(麦芽)とホップの産地と生産者まで迎えるシステムを構築し、トレーサビリティを確かなものとしています。

また、ビールの原料は自然の影響を受けやすい農産物であり、良質な原料の供給地は限られています。サッポロビールでは、より良い産地を選別するとともに、原料調達拠点を世界各地に分散させることで、良質な原料の安定的な確保を図っています。



Feature 2 生産方法が明確であること

どこで誰が生産したかがわかるだけでなく、その生産者がどのように栽培したかも把握できるシステムを構築しています。とくに使用農業に関しては、得られた情報に基づき残留濃度を確認し、日本のポジティブリスト制度に合致していることを確認しています。サッポロビール商品の原料の安全性はこのようにして担保されています。



「フィールドマン」とは?

大麦・ホップの育種・栽培・加工に関する専門知識と技術、経験を有し、大麦・ホップの生産者やサプライヤーとコミュニケーションを取りながら、より安全・安心で高品質な原料のグローバルレベルでの安定調達を担うサッポロビールの社員です。「畑の人」という名のとおり、フィールドマンは「協働契約栽培」の実行部隊であり、お客様と生産者をつなぐ架橋的な存在です。そんなフィールドマンの一番の喜びは、一緒につくりあげた原料からなるビールを生産者に届けて味わってもらい、ものづくりの喜びを分かち合うこと。生産者との絆こそが良質な原料の源泉になるのです。

Feature 3 サッポロビールと生産者の交流がされていること

「協働契約栽培」の最も特徴的な活動が生産者との交流です。フィールドマンが播種・耕作前、収穫前、収穫後などの時期に直接産地を訪問し、生産者とコミュニケーションを図ります。そのなかでは、サッポロビールからの要求事項の伝達や購入した原料の品質に関するフィードバック、前述の 1,2 で得た情報が正しいことの確認などを実施します。

生産者とこのような情報交換を直接行っているビール会社は世界

でも多くありません。

これにより、トレーサビリティや安全性の確度が高まり、より安全・安心な原料調達を可能にしています。


また、生産者にとっては自分たちの生産した原料の最終ユーザーであるビール会社と交流することで、当社向け原料生産に対するモチベーションも高まります。

フィールドマンが生産者を訪問




「どこで」「誰が」「どのように」つくったのかをしっかりと把握

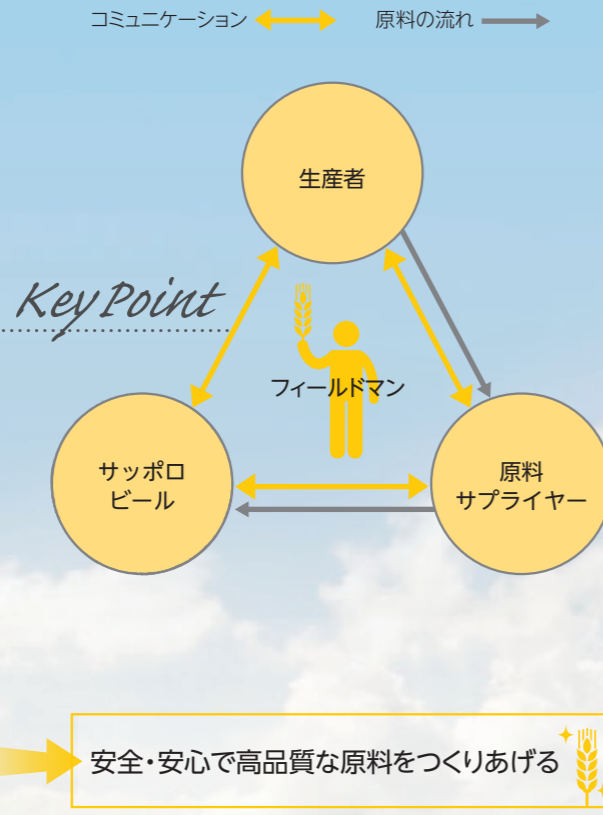
積極的なコミュニケーション




サッポロビールが求める原料品質を理解してもらう



品種の選定から栽培方法、肥料・農薬の使用方法、倉庫の管理状況にいたるまでさまざまな活動と一緒に取り組む



Voice



フィールドマン
保木 健宏

安全・安心で高品質な商品をお客様にお届けするために、ビールづくりの最も基本である原料調達にかかわれることにやりがいを感じています。これからも生産者・サプライヤーの皆様とのコミュニケーションをより深めることにより、原料の安全・安心、品質の向上を図り、「乾杯をもっとおいしく。」に貢献したいと思います。

Column

「おいしさを原料づくりから徹底追求」

お客様によりおいしいビールをお届けするために、サッポロビールは、創業以来、大麦とホップの両方の「育種」に取り組んできました。品種改良ともいわれる「育種」は、品種の交配・選抜を長い年月にわたり繰り返す、非常に地道で手間のかかる活動です。現在では、大麦とホップの両方を育種し、協働契約栽培で調達しているビールメーカーは世界でもほかにありません。私たちはこれからもお客様のおいしい笑顔のために、より高品質な原料づくりに挑戦し続けていきます。

近年の開発品種

【ホップ】
爽やかな香りと苦味を生み出し、ビールに欠かせない原料の一つとなっているホップ。ホップは、穏やかな香りと苦みが特徴のアロマホップと、強い苦味を特色とするビターホップに大別されます。サッポロビールは、2008年、シトラスの香りが特徴のユニークアロマホップ「フラノビューティ」を開発しました。また、2013年にはファインアロマホップのザーツを母親にもつ「ふらのほのか」、2014年には香りに特徴のあるユニークアロマホップ3品種（フラノブラン、フラノフローラ、フラノローザ）、さらに2016年にはトロピカルフルーツ香が華やかなユニークアロマホップ「フラノマジカル」を品種登録出願しました。また、ユニークな香りをいっそう引き出す栽培法の研究にも取り組み、2017年6月に開催された米国の醸造学会（ASBC）で研究成果を発表しています。新たな香りのホップを使うことで、従来のイメージとは異なる新しいタイプのビールができることを期待されています。



【大麦】

ビールを劣化させる原因の一つが大麦に含まれる酵素リポキシゲナーゼ-1（LOX-1）。サッポロビールはこの酵素をもたないLOXレス大麦を岡山大学と共同で見つけ出すことに成功、世界各地の専門機関とともに育種を進めています。カナダではサスカチュワン大学との共同研究により、北米での栽培に適した品種「CDC PolarStar」を開発し、2008年に商業規模での協働契約栽培を開始しました。また、オーストラリアではアデレード大学と共同で「SouthernStar」を開発しました。その後、カナダでは「CDC PlatinumStar」、オーストラリアでは「SakuraStar」、国内では「札育2号」を品種登録出願し、欧州でも同様の取り組みを進めるなど、世界各地でLOXレス大麦品種の開発と普及に努めています。

「2015年度日本育種学会賞」を受賞

大麦育種への継続的な取り組みが評価され、サッポロビールは「リポキシゲナーゼ欠失ビール大麦育成グループ」の中核メンバーとして、2015年度日本育種学会賞を受賞しました。同賞は「育種に関する研究において注目すべき業績をあげた会員」に授与されるもので、1953年から続く権威ある賞です。今後も、国内外の他企業や大学と連携しながらビール原料に関する育種・研究開発力を磨き、魅力ある商品展開に活かしていきます。



受賞グループ：
サッポロビール株式会社／岡山大学／
サスカチュワン大学（カナダ）／
アデレード大学（オーストラリア）

Value Creation

「酒・食・飲」を通じて、
新しい**価値を創造**し、
お客様に喜びと潤いをお届けします。

Key Actions

「酒・食・飲」による潤いの提供に関する重点課題

Action 1 安全・安心の品質

サッポログループは、食品を扱う企業グループとして、「商品・サービスの品質の追求と安全性の優先」をサッポログループ企業行動憲章の第一に掲げ、お客様に信頼される企業を目指して取り組んでいます。また、研究・商品開発から原材料の調達、製造、物流、販売まで、お客様のお手元にいたるすべての段階における品質が重要と考え、その向上に取り組んでいます。



Action 2 新価値創造

サッポログループでは、「お客様を知る」「おいしさを探す」「おいしさをつくる」「おいしさを保証する」という4つのコア技術を核にした研究開発により、未来につながる食分野での新しい価値創造に取り組んでいます。
ビールづくりに始まったサッポログループの研究開発の取り組みは、事業領域拡大とともにその範囲を広げています。『酒・食・飲』の幅広い商品・サービスとして、これからも新しい価値をお客様にお届けしてまいります。



Action 3 アルコール関連問題

お酒は昔から「百薬の長」と呼ばれ、適度な飲酒は科学的にも健康に良いとされています。一方で、飲み方や摂取量を誤れば、心身の健康に害をもたらすおそれがあるのも事実です。サッポログループは、こうしたお酒の特性を正しく理解していただけるよう、「適正飲酒」について広く伝えていくことが、酒類事業を展開する企業グループとしての社会的な責任であると考えています。このため、企業行動憲章に定めた「社会的配慮をもって臨み」「健康で明るい生活にふさわしい節度ある飲酒を呼びかける」などの方針に基づき、「サッポロビール(株) 適正飲酒に関する基本方針、行動指針」を定めて取り組みを行っています。



専修大学でのセミナー

Action 1 安全・安心の品質 サッポログループ品質保証体系

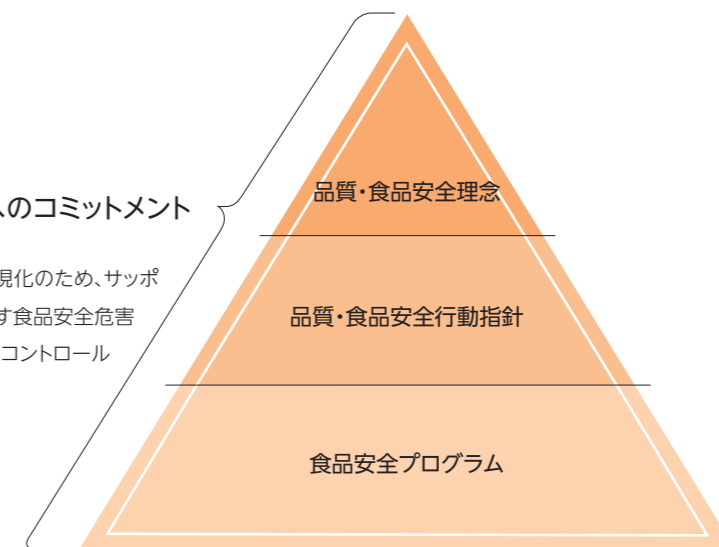
サッポログループでは、「サッポログループ品質保証体系」を策定しています。これは、グループで取り組む品質保証の考え方や基準を定めたもので、サッポログループ各社の品質に対する考えと行動の基礎をなすものです。とくに、食品を扱う企業グループと

して最優先で求められる食品安全に関して、加速するグローバル展開を見据え、サッポログループとしての確固たる姿勢を、国内外の事業会社はもとより海外の提携先も含めて共有することを目的としています。

サッポログループ品質保証体系図

安全で確かな品質の商品・サービスへのコミットメント

「食品安全プログラム」は、理念と行動指針の具現化のため、サッポログループの扱う商品・サービスに不具合をもたらす食品安全危害や品質低下危害を特定したうえで、これらの危害をコントロールするための取り組みの基準を定めています。



Providing Creative, Enriching and Rewarding Lifestyles through "Alcoholic Beverages", "Food" and "Soft Drinks"

「酒・食・飲」による潤いの提供

Action 2 新価値創造 4つのコア技術

お客様を知る

お客様は何をおいしいと感じ、どんな風に商品・サービスを選ばれるのか。サッポログループの新価値創造は、そんなお客様との徹底的なコミュニケーションから始まります。ここで活躍する感性科学や情報科学分野の技術開発においては、最先端のICT技術やセンシング技術の活用など、社外との協働も積極的に行っています。



“おいしさ”を探す

サッポログループが創業当時から一貫してこだわり続けていること。それは原料・素材がもつ本来の価値を見つけ、お客様にお届けすることです。ビールの原料である大麦やホップ、レモンや大豆など、商品の“おいしさ”のもととなる原料から、さまざまな香味や健康機能性をもつ新しい食品素材の発掘まで、世界中の畑をまわるフィールドワークと知的好奇心にあふれる探索・研究を行っています。



“おいしさ”をつくる

ビールの製造工程の一つである酵母による発酵、香味を損なわないための果汁や食品素材の殺菌技術、容器に入れやすくお湯を入れればすぐに溶けるカップスプーンの造粒技術。サッポログループがお届けするすべての商品は、こういった製造加工工程における技術開発によって、「よりおいしく、より便利に」を実現します。



“おいしさ”を保証する

お客様にいつでも安全で安心な食生活を送っていただける商品・サービスをお届けすることは、食のメーカーとして最も基本的で大切なことと考えています。原料の残留農薬や原料用水、製品中の香味にかかわる成分の分析など、お客様に商品をお届けするまでのあらゆる段階で、研究開発部門の高度な分析技術を活用し、グループの品質保証体制を支えています。



Action 3 アルコール関連問題 適正飲酒に関する啓発活動

サッポログループは、アルコール関連問題*に対応すべく、さまざまな適正飲酒の啓発活動を継続的に行っています。

大学生向け「適正飲酒啓発セミナー」の開催

サッポロビールは、飲酒に関する正しい知識を習得し、健康的にお酒を楽しんでいただくための「適正飲酒啓発セミナー」を2015年から首都圏の大学を中心に開催しています。セミナーでは、お酒の定義や酔いのメカニズムなど、適正に飲酒するための基礎知識から、将来社会に出て役立つ酒席でのマナーなどについても講義を行います。なお、本講義には、未成年の学生向けに、「未成年者の飲酒防止」を啓発する内容も含まれています。



大学生を対象としたセミナー開催

海水浴場での「飲酒マナー向上」活動を支援

サッポロホールディングスでは、「飲酒マナー向上」を目指し、NPO法人日本ライフセービング協会が主催する海水浴場などでの事故を未然に防ぐ活動を支援しています。2016年は三浦海岸海水浴場（神奈川県）と御宿中央海水浴場（千葉県）で「飲んだら、泳がない。」キャンペーンが行われました。



御宿中央海水浴場（千葉県）で行われた「飲んだら、泳がない。」キャンペーン



配布されたチラシ

※ アルコール関連問題：
アルコール関連問題にはさまざまなテーマがあります。刑法や道路交通法の改正など法の罰則強化が進められている飲酒運転の問題もあれば、「イッキ飲み」など不適切な飲酒による事故の問題もあります。また、未成年者飲酒や妊娠中・授乳期の女性の飲酒、高齢者飲酒など、身体的にアルコールの影響を受けやすい人々の飲酒の問題や、患者数が全国で約109万人と推計されているアルコール依存症、お酒の強要や酔った勢いでの迷惑行為などのいわゆる「アルコールハラスメント」の問題もあります。

Value Creation

Contribution

地域社会の一員として地域の発展や課題解決に**貢献**し、地域の皆様やサプライヤーの皆様とともにより良い未来を創造 します。



写真提供：月刊陸上競技

Key Actions

社会との共栄に関する重点課題

Action 1 地域貢献

サッポログループがこれからも成長を続けていくうえで、事業展開する地域が健全で持続可能な社会であることが重要であると考えています。

サッポログループでは創業以来、事業を展開する国や地域の支援に感謝し、コミュニケーションを取りながら地域に根ざした社会貢献をしてきました。今後も、全従業員が主体的に、継続的に地域の強みやスポーツ・文化・伝統を理解し、地域社会の一員として地域の発展や課題解決に協働で取り組みながら、より良い未来を創造していきます。また東日本大震災や熊本地震からの一日も早い復興を願い、今後も復興支援活動を継続していきます。



恵比寿麦酒祭り

Action 2 持続可能な調達

より良い未来を築くためには、持続可能な調達も欠かせないと考えています。

サッポログループの商品は、数多くのサプライヤーの存在があって初めて完成するものです。そのため、グループ調達基本方針に基づき、公正・公平で自由な取引を徹底するとともに、サプライヤーとお互いに信頼関係を築くよう努め、ともに課題を解決し、ともに成長し、発展することを目指します。



地中海エリアでのレモン収穫風景

Action 1 地域貢献 スポーツ・文化活動

「スポーツマンシップに乾杯!」というスローガンのもと箱根駅伝を応援

日本のお正月の風物詩ともいえる「箱根駅伝」。200km以上もの距離を未来ある若者がチームのために、それぞれの大学の伝統や誇りが込められた「たすき」をつなぐ。母校の名誉と仲間のために走るひたむきな姿勢は、サッポロビールの「ものづくりへの思いと信念」にもつながります。これまで31年にわたり、「スポーツマンシップに乾杯!」というスローガンのもと、「箱根駅伝」を応援してきました。サッポロビールは、これからも「箱根駅伝」を応援していきます。

「勝っても負けてもサッポロビール!」を合言葉に全日本早起き野球協会を応援

全日本早起き野球協会は、野球を通じてスポーツの普及と振興を図り、「健康と親睦」をモットーとするアマチュア軟式野球の全国組織として、1981年に設立されました(全国15万人、8,000チームが加盟)。サッポロビールは、設立以来、



第36回全日本早起き野球大会 開会式(東京都 大田スタジアム)

「スポーツマンシップに乾杯!」「勝っても負けてもサッポロビール!」を合言葉に活動している全日本早起き野球協会を応援しています。



全日本早起き野球協会ロゴマーク

体験型ミュージアム「BLUE SEAL ICE PARK」

ポッカサッポロフード&ビバレッジ(以下、ポッカサッポロ)の関係会社フォーモストブルーシールは、次世代を担う子どもたちに、アイスクリームを通して夢を与えていきたいというコンセプトのもと、2016年9月に体験型ミュージアムを沖縄にオープンいたしました。“世界に一つだけ”のオリジナルアイスバーを手づくりできる「体験ゾーン」、撮影コーナーのある「コミュニティーゾーン」などのほかに、マイナス25度の冷凍庫体験ができたり、アイスクリームの製造工程の見学もできる施設となっています。

アイスクリームによってもたらされる楽しい体験を通して、これからも地域の皆様に貢献していきます。



ブルーシールアイスパーク



Action 1 地域貢献 地域とのパートナーシップ

渋谷区と「S-SAP(シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー)協定(包括連携協定)」を締結

サッポロホールディングスは、渋谷区と密接に連携し、協働して地域社会の諸課題を解決することを目的として「S-SAP協定(包括連携協定)※」を2016年に締結しました。これにより、「次世代育成」「恵比寿地区の活性化」「スポーツ・健康増進」「観光および文化」「多様性社会(ダイバーシティ)の実現に関する啓発活動」への支援など8項目において協働で取り組みます。サッポログループは、事業活動を通じ、これからも渋谷区の良きパートナーとして地域社会への貢献を強化していきます。

※ S-SAP協定(包括連携協定):
渋谷区が民間企業のもつ技術やノウハウを活かし、公民連携・協働により地域社会の課題解決を目指して締結する制度



S-SAP協定調印(左:渋谷区長谷部区長 右:サッポロホールディングス上條社長(現 会長))

事業所内保育所の開設

サッポログループでは、一人ひとりの能力が最大限発揮できる環境の整備に取り組んでいます。その一つとして、2017年4月、事業所内保育所を恵比寿ガーデンプレイス内にオープンしました。

「コンソーシアム型」(複数企業向け)とし、サッポログループ内にとどまらず、恵比寿ガーデンプレイスタワーに入居するテナント企業様の育児期社員の支援や、渋谷区の待機児童対策にも貢献します。

ポッカレモン消防音楽隊、出動!

2016年4月から名古屋市消防音楽隊が「ポッカレモン消防音楽隊」として活動しています。これは名古屋市から「ネーミングライツ(命名権)」を取得したもので「組織体への命名」は全国の自治体で初の試みです。2017年、誕生60周年を迎える名古屋発祥の「ポッカレモン」が、地元・名古屋を盛り上げる活動に協力しています。



ポッカレモン消防音楽隊

北海道の森を元気にしよう!

サッポロビールとポッカサッポロは、北海道・生活協同組合コープさっぽろと共同で「北海道の森を元気にしよう!」キャンペーンを4年連続で実施しました。

ビールやワイン、清涼飲料水などの対象商品をご購入いただくと一定量のCO₂をカーボン・オフセット※でき、北海道の森林保全の応援につながるものです。これからも、資源豊かな北海道の環境を未来へ引き継いでいけるように支援していきます。

※ カーボン・オフセット:
自らが排出したCO₂を、他の場所で削減された量や、吸収された量を購入することで相殺する方法



Action 1 地域貢献 復興支援

被災地(東北・熊本)の放課後学校「コラボ・スクール」を通じた次世代育成支援

東日本大震災、熊本地震で被害を受けた地域で子どもたちの学びの機会と居場所の提供を通じた心のケアを行う認定NPO法人カタリバに運営資金を寄付しました。この取り組みを通じ、子どもたちを取り巻く環境がより良くなり、未来への活力につながるようにNPOとも対話を続け、課題解決に取り組んでいきます。

熊本地震の被災地支援としてサッポロベトナム社でも、現地従業員労働組合が自発的に募金活動を行い、日本国内から海外まで支援の輪が広がりました。



熊本県益城町
コラボ・スクールへの
贈呈式



上條会長から感謝状を受け取るサッポロベトナム社の労働組合員

Action 2 持続可能な調達 サプライヤーの皆様との関係構築

サッポロビールとポッカサッポロでは、主なサプライヤーを対象に、ISOの認証取得状況やCSRの取り組み状況を確認する「CSRアンケート」を実施しています。

サッポロビールでは、容器・包装資材のサプライヤーに対して、購買部員や製造部員、工場のパッケージ担当者が訪問し、品質管理の監査、従業員教育、CSRの取り組み状況など多方面にわたり双方の知見を交換し合う「交流会」を行っています。2016年はびんメーカー1社・2工場、段ボールメーカー5社・9工場で実施しました。

株主優待を通じた東北復興支援を継続

2016年度は、株主様からの寄付金にサッポロホールディングスから同額を加え、東北の復興を担う子どもたちへの教育支援として、3つの取り組みに寄付しました。今後も、継続して支援してまいります。



支援先:岩手県大船渡市
「糖」をテーマとした学習

支援先:岩手県大槌町
「小中一貫教育“ふるさと科”学習



支援先:福島県合唱連盟・福島県吹奏楽連盟
合同開催
「ふくしま復興祈念特別演奏会 in いわき」

サッポログループ従業員による東北復興支援

地元の名産品購入や宿泊・飲食などの消費活動を通じた活性化支援として、2013年より毎年東北復興応援ツアーを実施しています。



2017年東北復興応援ツアー



事業所内保育所
「ポピンズナーサリースクール恵比寿 ホップキッズ」



交流会の様子

Future

自然の恵みを**未来**に受け継ぐため、
事業の各段階において環境保全に取り組み、
従業員一人ひとりが主体的に環境活動を推進します。



Key Actions

環境保全に関する重点課題

Action 1 地球温暖化防止

サッポログループは、「地球温暖化対策推進法」「省エネ法」など、法的要求事項に適切に対応するとともに、事業のサプライチェーンを意識し、関係者一人ひとりが主体的にかかわる各種環境活動を推進しています。製造拠点や店舗への積極的な省エネ設備の導入、物流における効率向上や再生可能エネルギーに関する開発などさまざまな分野で地球温暖化防止の取り組みを行っています。



LED照明を導入した省エネ型店舗「エビスバー」

Action 2 3Rの推進

限りある資源を有効に使い環境負荷を低減するため、原材料調達から廃棄・リサイクルまでの各段階で3Rを進めています。原材料調達における容器・包装などの3R、製造にともなう副産物・廃棄物の3Rなどに努めるとともに、商品提供ではビールサーバーの長寿命化による廃棄台数の抑制などを実施しています。また、水の使用量や発生する排水の管理などといった水資源の保全や、外食事業での生ごみの削減、廃棄物を利用した発電などさまざまな取り組みを推進しています。



ビールサーバーの「サッポロセパレシステム」

Action 3 自然との共生

事業活動に必要な原材料の調達を自然の恵みから受けていることに感謝し、サッポログループは、事業特性を活かした生物多様性保全の活動に取り組んでいます。また、地域の皆様と一緒に生物多様性保全の大切さを学ぶ次世代教育を行っています。



工場での自然教育

Action 1 地球温暖化防止

バイオエタノール製造プラントの実用化

サッポロホールディングスとタイ企業のInnotech Green Energy Company Limited (以下、IGE社)は、NEDO^{※1}技術実証の成果をもとに、世界初となるキャッサバパルプ^{※2}を用いたバイオエタノール生産プラントの実用化に向けて、製造技術およびプラント設計など技術支援に関する契約を締結しました。IGE社が建設を目指すバイオエタノール生産プラントは年産6万klの製造能力をもち、その温室効果ガス削減効果は約12万トン/年と試算されます。



NEDO技術実証での10klパイロット設備

今後、タイ国内にとどまらず、キャッサバ栽培が盛んなASEAN諸国へのバイオ燃料製造技術の普及、エネルギー・環境問題の解決に貢献してまいります。

※1 NEDO：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
 ※2 キャッサバパルプ：キャッサバイモからタピオカを精製した残渣



キャッサバパルプを用いたバイオエタノール生産事業に対する技術提供に対しInnotech Green Energy Company Limited (タイ)と契約を締結 (2017年1月9日)

Action 2 3Rの推進
廃棄物の再資源化

製造拠点での取り組み

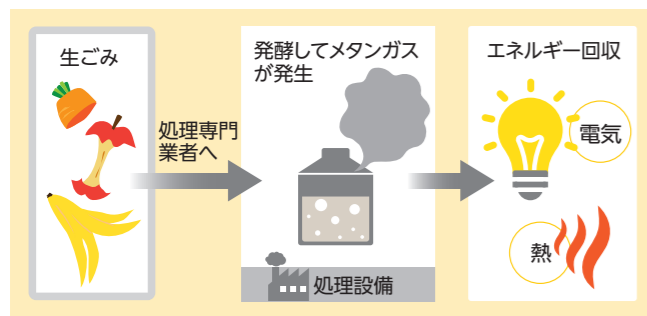
サッポロビールは1998年、ポッカサッポロは2006年以来、商品製造にともなう副産物・廃棄物の100%再資源化を自社工場達成しており、現在はその維持と発生量抑制に努めています。またビール工場では、嫌気性廃水処理システムの導入に加え、廃水の浄化過程で発生するバイオガスをボイラ燃料に用いるなど、熱エネルギー利用も実施しています。



サッポロビール北海道工場

外食事業での取り組み

サッポロライオンでは、食を扱う企業として、調理残渣などの生ごみを減らす取り組みをしています。一部の店舗では、生ごみ処理を外部に委託して電気と熱にリサイクルしています。



不動産事業での取り組み

「恵比寿ガーデンプレイス (YGP)」では、廃食用油を化石燃料の代替エネルギーであるBDF※¹としてリサイクルしています。YGPのテナント飲食店の分別廃棄の協力を得て、YGP内の施設から発生した廃食用油の一部は、YGP廃棄物処理センターの運営会社である(株)都市環境エンジニアリングのBDF工場において原料として使用されます。高品質※²に精製されたBDFは、YGPで廃棄物処理を専門に行う一部の車両に使用しています。

※1 BDF (Bio Diesel Fuel) : 生物由来油からつくられるディーゼルエンジン用燃料の総称であり、バイオマスエネルギーの一つ
※2 高品質 : JIS K 2390の規格および東京都環境確保条例の規制をクリア



BDFを利用した廃棄物車両

Action 3 自然との共生
生物多様性を考慮した保全活動

絶滅危惧種保護の取り組み

サッポロビールは長野県と、絶滅が危惧されている「ライチョウ」の保護に向けた普及啓発と体制構築を目的とした「生物多様性保全パートナーシップ協定」を締結しました。また、サッポロ生ビール黒ラベル「信州環境保全応援缶」を2017年6月に長野県で数量限定で発売しました。長野県の環境保全に対する取り組みを応援するため、売り上げの一部を寄付しています。



長野県との生物多様性保全パートナーシップ協定



サッポロ生ビール黒ラベル「信州環境保全応援缶」

ビオトープ園を活用した環境教育

サッポロビールでは、ビオトープ園を有する静岡工場と北海道工場において、地域の親子に同園を開放し環境教育を行っています。静岡工場では、地域の自然保護団体や高等学校の方々にご協力をいただき、2010年以降親子自然観察会を実施しています。北海道工場でも、2011年以降自然を体験するイベントを実施しています。



ビオトープ園における自然観察会

カートカンによる森林保全

ポッカサッポロは、森林の保全・育成に欠かせない間伐材を含む国産材を30%以上使用した紙製飲料容器のカートカンを採用しています。国産の木質資源を積極的に活用するとともに、売り上げの一部を「緑の基金」に寄付することで、日本の森林を守り育てる一助となっています。健全な森林の保全・育成はCO₂の吸収を促し、地球温暖化を防ぐことはもちろん、森で生活する動植物などの生態系保全にもつながります。



カートカンの商品



HUMAN RESOURCES

従業員＝「**人財**」の個々の能力を最大限発揮できる環境の整備を強化するとともに、健康・安全に向けた取り組みを推進します。

「酒・食・飲」による潤いの提供

社会との共栄

環境保全

個性かがやく人財の輩出

Key Actions

個性かがやく人財の輩出に関する重点課題

Action 1 健康経営

サッポログループ各社は、安心して働ける職場環境づくりには、従業員の安全・健康に対する配慮の徹底が不可欠だと考え、労働災害の防止や、心身の健康維持・増進に向けたさまざまな施策を実施しています。



「健康経営優良法人」ロゴマーク

Action 2 ダイバーシティ・人権

基本理念として自分の壁、組織の垣根、事業や国の境界を越えていく「越境せよ」を掲げています。仲間と磨き合い、それぞれの違いを認め、強さにする事で、初めて越境でき、それが経営理念の実現につながると考え、あらゆる多様性（性別・年齢・障がい・国籍・学職歴・雇用形態・価値観など）を尊重し、多様な発想・考え方を有する人財を認め活かし、一人ひとりの能力が最大限発揮できる環境の整備を強化していきます。



女性キャリアアップセミナー風景

Action 3 人財開発・育成

サッポログループはすべての従業員を会社の宝である「人財」と位置づけ、それぞれが個々の強みを最大限に活かし、主体的なキャリア形成ができるよう、グループ各社の事業特性を踏まえた支援を行っています。グループ各社ではそれぞれの経営戦略に基づきながら、従業員一人ひとりのモチベーション向上を目指し、人事制度の充実を図っています。



キャリア形成研修風景

Action 1 健康経営 安心して働ける職場環境づくり

従業員の健康管理とメンタルヘルスケア

サッポログループ各社とサッポロビール健康保険組合の共同で、グループ全従業員の定期健康診断を行い、その結果をもとに生活習慣病対策などを指導しています。労働安全衛生法に基づく健康管理のほか、サッポロビール健康保険組合主体で「健康相談フリーダイヤル」の開設や参加型の「ウォーキングキャンペーン」など、きめ細かな「疾病予防」活動を展開しています。2017年に健康経営プロジェクトをキックオフ、従業員の健康意識改革に向けた基礎づくりや健康管理推進体制の強化に取り組んでいきます。またサッポロビール健康保険組合では、メンタルヘルス（心の健康）対策として、グループ全従業員対象の講演会の開催や機関誌による啓発などを行うとともに、社外窓口の専門ダイヤル「24時間電話相談」を設け、心理カウンセリングを含む各種相談を受け付けています。さらにサッポロビール健康保険組合のホームページでは、健康啓発に関するさまざまな情報をお知らせしています。



「働き方改革2020」キックオフ

サッポロビールは、仕事の生産性向上、心身の健康、生活の充実を目的に働き方改革を本年よりキックオフしました。各自の業務を優先順位

づけし、取捨選択を進める一方、テレワーク・時間有休・スーパーフレックス制度を導入し、働き方の選択肢を拡大して時間の創出を図ります。また、終業時間から次の日の始業時間までに最低11時間を確保する勤務間インターバル制度を導入します。

これらの制度は、現在、一部の部署でテスト運用を行っており、効果や業務への影響を確認して、随時全社的に導入する計画です。

ポッカサッポロとサッポロライオンでもプロジェクトを立ち上げ、今後さまざまな制度を検討していきます。サッポロインターナショナルでは海外との時差を考慮し、よりフレキシブルな勤務体系を構築すべく、テレワークやスーパーフレックス制度などを試験的に導入。結果を踏まえて本格的導入にむけて検討中です。サッポロ不動産開発でも働きやすい環境づくりおよび生産性の向上に向けて、さらに取り組みを推進していきます。

「健康経営優良法人（ホワイト500）※」に認定

サッポログループでは、長期経営ビジョン「SPEED150」のなかで、「最大の財産は人財であり、グループの人財が、心身ともに健康で、元気で明るく前向きなエネルギーをもって新たな領域に挑戦・越境し、サッポログループで働いて良かったと思える企業を目指す」ことを掲げています。サッポロホールディングス福原取締役

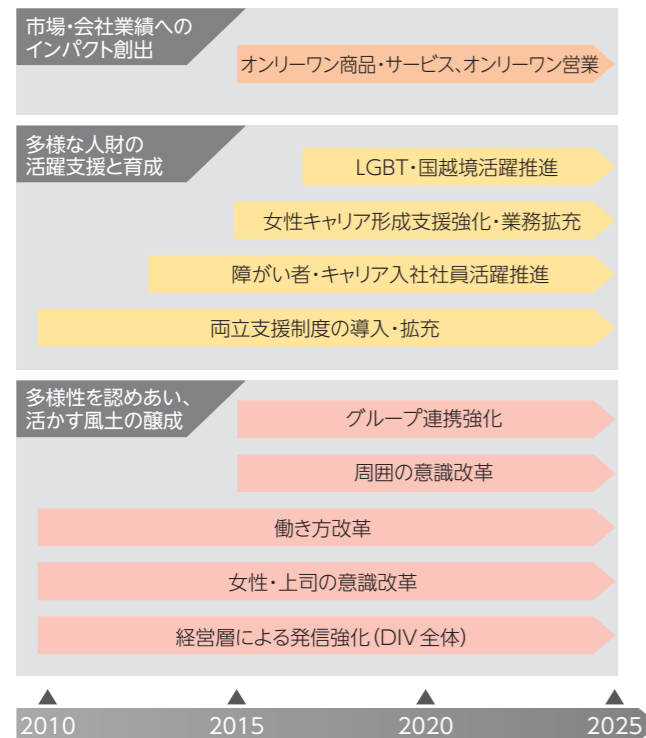


※ 健康経営優良法人（ホワイト500）：経済産業省が経済界・医療関係団体・自治体のリーダーから構成される日本健康会議と共同で実施し、健康経営実践法人の拡大を図るもので、保険者と連携して優良な健康経営を実践している法人を顕彰する認定制度

Action 2 ダイバーシティ・人権 多様な人財の活用と育成

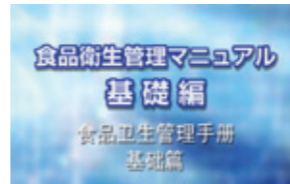
キャリア形成支援

サッポロビールでは、ビジョン「オンリーワンを積み重ね、No.1へ」を実現するベースとして「ダイバーシティの推進」「働き方改革」を位置付けています。「多様性を認めあい、活かす風土の醸成」「多様な人財の活躍支援と育成」「市場・会社業績へのインパクト創出」を中長期目標として、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。



外国人雇用への配慮

サッポロライオンでは、外国人雇用の大半が留学生・就学生のパート・アルバイトスタッフで、所定の資格および資格外活動許可書の所持を条件に採用しています。調理補助スタッフとして勤務している従業員には、中国からの留学生・就学生が多いこともあり、習慣などの違いから生じる衛生上のリスクを解消するため、中国語字幕付きの衛生管理マニュアルビデオを作成し、衛生管理の徹底を図っています。また、日本語が堪能な留学生は、接客スタッフとしてアジアからの観光客対応に活躍しています。



マニュアルビデオの画面

女性活躍推進セミナー「恵比寿交流会」を共同開催

サッポロホールディングスは、あいおいニッセイ同和損害保険(株)と共同で、「キャリアアップすることで広がる世界の厳しさと面白さ」をテーマに、恵比寿に縁のある企業の女性管理職をパネリストにお招きしてセミナーを開催しました。

今後も、ダイバーシティと女性活躍の推進に取り組み、より幅広いキャリアアップを目指し、いきいきと目標にむかって働き続ける従業員の後押しをするとともに、一人ひとりの能力が最大限発揮できる環境の整備を強化していきます。



パネリストの皆様



2016年開催セミナーの様子

Action 3 人財開発・育成 人財育成の新たな取り組み

サッポログループでは各事業の特性に応じ、各種研修や制度の充実など、従業員の主体的なキャリア形成を支援しています。

越境プロモータープログラムによる「越境人財の育成」

越境プロモータープログラムは、サッポロビールにおいて公募型のプログラムとして2016年よりスタートしました。越境チームに選ばれたリーダーとメンバーは現在の所属部署に在籍しながら希望する本社部署の実務を3日間体験することができます。その本社実務体験を活かして当該本社部署が抱える課題を把握し、その後4カ月間にわたり、チームで課題解決のためにさまざまな越境提案をするプログラムです。

このプログラムを通じて自身の現業務と全く違う経験を経験することは、視座の高さや視野の広さをもった越境人財の育成につながっており、今後はサッポログループ全体での展開も検討しています。



越境チーム実務体験

若手グローバル人財育成プログラム(GPC)による「グローバル人財の育成」

サッポログループでは、グローバルに活躍できる人財を育成するための研修を毎年実施しています。2011年からスタートしており、2017年で第6期となります。異文化対応力や英語でのコミュニケーション力をあげることを目的に、国内での研修に加え、2015年から新たに海外(シンガポール・ベトナム)での実地研修を行うプログラムを展開しています。このプログラムを受講した社員の中には、実際に海外に赴任したり、海外に関連する業務を行っている者が多数います。

サッポログループのグローバル展開の実現に向けて、今後も継続して実施していきます。



GPCでの海外研修(フィールドワーク)

HUMAN RESOURCES

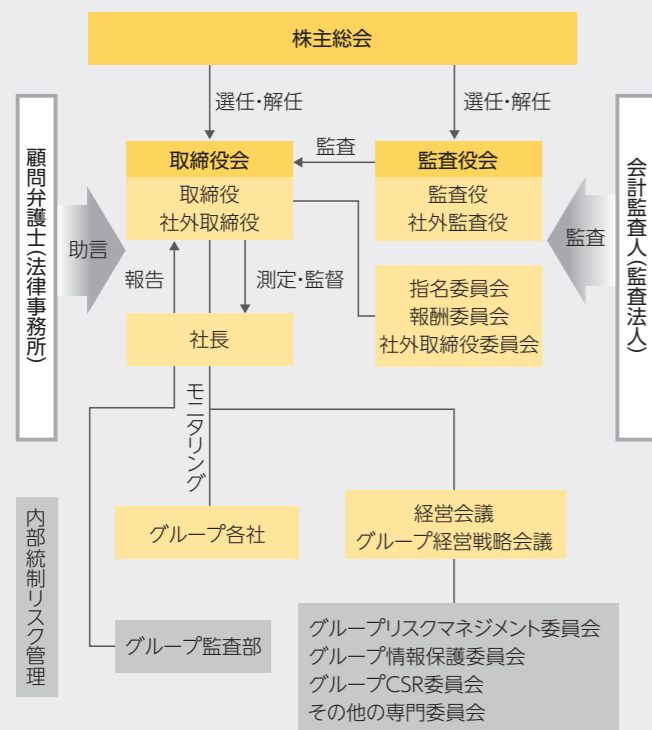
サッポログループは、コーポレートガバナンスの強化・充実を経営上の重要な課題の一つに位置づけ、健全な企業経営を行い、持続的に企業価値を高めていくために、経営における透明性の向上と経営目標の達成に向けた経営監視機能の強化に努めています。

また、株主様への適切な利益還元を経営上の最重要施策とするとともに、株主様をはじめとするステークホルダーが必要とする情報を適時・適切に開示します。

コーポレートガバナンス

サッポロホールディングスは、サッポログループの「経営理念」「経営の基本方針」および「運営基本原則」を具現化し、グループ全体の持続的な企業価値向上を図っていくために、グループのコーポレートガバナンスの強化・充実を経営上の重要な課題として位置付け、持株会社体制のもとでグループ内における監督機能、業務執行機能および監査機能を明確化し、経営における透明性の向上と経営目標の達成に向けた経営監視機能の強化に努めています。

コーポレートガバナンス体制の模式図



取締役会

3名の独立社外取締役を含む取締役会メンバー9名が、グループ経営における監督機能を担い、法定事項および取締役会規程に定める重要な業務執行事項について意思決定するとともに、代表取締役、社長、グループ執行役員、その他重要な使用人を選任し、その業務執行状況を監督します。

リスクマネジメント

サッポロホールディングスでは、グループ全体のリスク管理体制強化の観点から、リスクマネジメントに関する基本方針・管理体制および危機管理規程を定め、当社および子会社にかかるリスク管理や危機管理を行っています。

品質リスクへの対応

食品製造企業の使命として、お客様への安全な商品提供を最優先課題とし、関係部門・部署に対してリスクマネジメントやリスクコミュニケーションに関する啓発・講習を実施するなど、品質リスクへの対応を強化しています。

大規模災害を想定した対策

サッポログループでは、東日本大震災の教訓を踏まえ、グループのBCP(事業継続計画)策定に継続的に取り組んでいます。「安全最優先」「社会・地域への貢献」「事業の継続・復旧」を基本方針とした「グループ激甚災害対策規程」を軸に、「グループ災害対策本部マニュアル」などの関連マニュアルを整備し、定期的に内容の見直しを行っています。

また、グループの各拠点には非常用食料や飲料水などの備蓄品を配備するとともに、グループ統一の従業員の安否確認システムおよび拠点の被災状況確認システムを導入し、定期的な入力訓練とこれらを使用したグループ災害対策本部の机上訓練を実施することで、大規模災害発生時に機動的に活動できるよう備えています。

不正行為の防止と発見

サッポロホールディングスは、グループ内の不正行為の防止・早期発見、高い倫理観の醸成などを目的として、2003年に「サッポログループ企業倫理ホットライン規程」を制定しました。この規程では、不正行為を知った者に通報を義務づけるとともに、通報者に不利益が及ぶことを防止する対策なども定めています。これに基づき、グループリスクマネジメント部を事務局として「サッポログループ企業倫理ホットライン」を設置し、規程に沿った運用と周知に努めています。

株主・投資家への情報開示

積極的なIR活動

サッポロホールディングスでは、国内証券会社のアナリストや機関投資家の方々を対象とした決算説明会に加え、四半期開示制度に対応した電話会議形式での決算説明会をそれぞれ年2回実施しています。その内容はすべてホームページのIRライブラリーで公開しています。海外機関投資家の方々に対しては経営陣によるIR活動を実施し、長期的な戦略について説明しています。また、国内外機関投資家の方々と年間160件以上実施しているワン・オン・ワンミーティングや、証券会社主催のグループミーティングへの参加など、積極的なIR活動を展開しています。



アナリスト向け説明会

SRIインデックスへの組み入れ

近年、投資信託の運用にあたり、企業の業績などの財務面だけでなく、環境保全や社会貢献への取り組みを評価基準とする「社会的責任投資(Socially Responsible Investment)」が注目を集めています。サッポロホールディングスでは、CSR活動の推進が長期的な企業の発展、さらには株主様への利益還元にもつながると考え、積極的に取り組んでいます。そうしたCSRへの取り組みが、国内外のSRI評価機関から高い評価を受け、2016年12月末現在、下記のSRIインデックスに組み入れられています。

FTSE4Good Global Index (英国・FTSE社)：国際的に認可された企業責任基準を満たす企業活動を評価し、そのような企業への投資を促進するために作成されています。透明な運営方法・選定基準とFTSEグループの高いブランド・イメージにより、FTSE4Good指数シリーズは社会的責任投資(SRI)商品に最適な指数の一つとなっています。



FTSE4Good

コンプライアンスの推進

サッポログループでは、社会から信頼され続ける企業グループであるために、すべての役員・従業員に対し確かな倫理観に基づく行動を促す規範として、企業倫理に主眼を置いた「サッポログループ企業行動憲章」を定めています。この「サッポログループ企業行動憲章」を周知・理解・浸透させて、日常の業務での判断や具体的な行動に落とし込ませることがグループのコンプライアンスの推進にとって重要であると考え、体制を構築し、グループ社員の継続的な啓発・教育に取り組んでいます。

グループ共通コンプライアンスeラーニングの実施

サッポログループでは、2007年以降、すべての従業員を対象としたグループ共通コンプライアンスeラーニングを実施しています。グループ社員一人ひとりが、「サッポログループ企業行動憲章」を理解し、確かな倫理観に基づく行動を取れるようになること、重要なグループ基本方針や基本規程および重要法令を理解することで日常の行動におけるコンプライアンスリスクを低減させることを目指し、継続的に取り組んでいます。



eラーニングシステム画面

ケーススタディによる職場勉強会

サッポログループ各社では、コンプライアンスに関するさまざまな事例をテーマとした職場勉強会を、事業場ごとに実施しています。日常から、身の回りのことやコンプライアンスを考える機会をつくること、そして「互いの考えを話し合える、風通しが良く、相手の心に寄り添える職場」を目指すことを目的としています。組織を活性化させながらコンプライアンス意識が高まるよう、継続的に取り組んでいます。



職場勉強会資料画面

コンプライアンス・キーパーソンの設置

サッポログループ各社では、職場でのコンプライアンス推進役として、事業場の規模に応じて、コンプライアンス・キーパーソンを設置しています。例年、異動などで新たに選任されたコンプライアンス・キーパーソンを対象に、「キーパーソンの役割理解」「コンプライアンスの基礎知識の習得」「ファシリテーションスキルなどの習得」を目的とした、グループ合同の研修を開催しています。

Sapporo's Global Presence

日本から世界に広がるサッポログループ

● 主な工場、事務所、店舗所在地



Japan 国内拠点

サッポロビール株式会社

事業内容: ビール・発泡酒・新ジャンル・焼酎の製造・販売、輸入ビール・ワイン・洋酒の販売ほか

[国内関連会社]

- 株式会社恵比寿ワインマート
事業内容: 酒類・食品・雑貨の販売
- 株式会社楽丸酒造
事業内容: 焼酎の製造・販売
- スターネット株式会社
事業内容: 家庭用商品インスタマーチャンダイジング事業、生ビール品質推進事業
- 株式会社新星苑
事業内容: 飲食店の運営
- ジャパンプレミアムブリュー株式会社
事業内容: クラフトビール事業におけるブランドマーケティングおよび商品企画
- 京葉ユーティリティ株式会社
事業内容: 京葉コンビナートの総合管理

サッポロインターナショナル株式会社

事業内容: 国際事業の管理・運営

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

事業内容: 飲料水および食品事業、外食事業ほか

[国内関連会社]

- ポッカサッポロ北海道株式会社
事業内容: 飲料水および食品の販売・マーケティング
- 株式会社沖縄ポッカコーポレーション
事業内容: 飲料水および食品の販売・マーケティング
- 株式会社ポッカクワイエット
事業内容: カフェチェーンの運営
- フォーモストブルーシール株式会社
事業内容: アイスクリームの製造・販売、飲食店の運営
- 株式会社PSビバレッジ
事業内容: 自販機オペレーター、給茶機事業
- 株式会社パブリック・ベンディング・サービス
事業内容: 自販機オペレーター
- 沖縄サンポッカ株式会社
事業内容: 自販機オペレーター
- スタービバレッジサービス株式会社
事業内容: 自販機オペレーター
- 磐田ポッカ食品株式会社
事業内容: 食品の製造
- 沖縄ポッカ食品株式会社
事業内容: 飲料水および食品の製造
- 日本ビーンズ株式会社
事業内容: 豆腐の製造・販売、油揚げ・がんも・生揚げなど大豆加工食品の製造・販売

株式会社サッポロライオン

事業内容: 総合レストランチェーン

[国内関連会社]

- 株式会社ニュー三幸
事業内容: 飲食店の運営
- 株式会社マルシンカワムラ
事業内容: 飲食店の運営
- 株式会社銀鱈水産
事業内容: 鮮魚の販売、飲食店の運営

サッポロ不動産開発株式会社

事業内容: 不動産の賃貸管理、開発、ホテルの運営など

[国内関連会社]

- YGPリアルエステート株式会社
事業内容: 不動産の売買、賃貸管理
- 株式会社東京エネルギーサービス
事業内容: 冷水・蒸気などの熱供給、電気供給、建設業法に定める管工事の請負、中水道設備の管理・運営
- 株式会社横浜恵和ビルディング
事業内容: 不動産の賃貸
- 株式会社ザ・クラブ・アット・エビスガーデン
事業内容: スポーツクラブの経営

サッポログループマネジメント株式会社

事業内容: グループコーポレート機能およびサッポログループ共通業務

[国内関連会社]

- サッポログループ物流株式会社
事業内容: 貨物利用運送業、荷役作業および倉庫業、包装および流通加工業ほか
- サッポロ流通システム株式会社
事業内容: 貨物運送、荷役作業および倉庫業、流通加工業ほか
- 神州味噌株式会社
事業内容: 味噌・即席みそ汁・フリーズドライの製造・販売

シンガポール

- 1 POKKA CORPORATION (SINGAPORE) PTE. LTD.
事業内容: 飲料水の製造・販売



- 1 SAPPORO LION (SINGAPORE) PTE. LTD.
事業内容: 飲食店の運営、生ケーキ・菓子の製造・販売



ベトナム

- 2 SAPPORO VIETNAM LTD.
事業内容: ビールの製造・販売



インドネシア

- 3 PT. POKKA DIMA INTERNATIONAL
事業内容: 飲料水の受託生産



マレーシア

- 4 POKKA (MALAYSIA) SDN. BHD.
事業内容: 飲料水の受託生産



- 5 POKKA ACE (M) SDN. BHD.
事業内容: 飲料水の受託生産



イギリス

- 6 SAPPORO HOLDINGS LTD.
Representative Office in London
SHロンドン駐在員事務所

カナダ

- 7 SLEEMAN BREWERIES LTD.
事業内容: ビールの製造・販売



[工場所在地]

- オンタリオ州
- プリティッシュ・コロンビア州
- ケベック州

アメリカ

- 8 SAPPORO U.S.A., INC.
事業内容: ビールの販売



- 9 SILVER SPRINGS CITRUS, INC.
事業内容: チルド飲料の製造・販売、受託生産



- 10 COUNTRY PURE FOODS, INC.
事業内容: チルド飲料の製造・販売、受託生産



[工場所在地]

- オハイオ州
- コネチカット州
- フロリダ州
- テキサス州

Global 海外拠点



SAPPORO

サッポロホールディングス株式会社

本レポートに関するお問い合わせ先

サッポロホールディングス株式会社
コーポレートコミュニケーション部 CSR室

〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号

TEL 03-6853-0136

URL <http://www.sapporoholdings.jp/>

本レポートの情報はホームページでもご覧いただけます。



印刷インクは、大気汚染原因となるVOC (揮発性有機化合物)の発生を減らすため、植物油インクを使用。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

